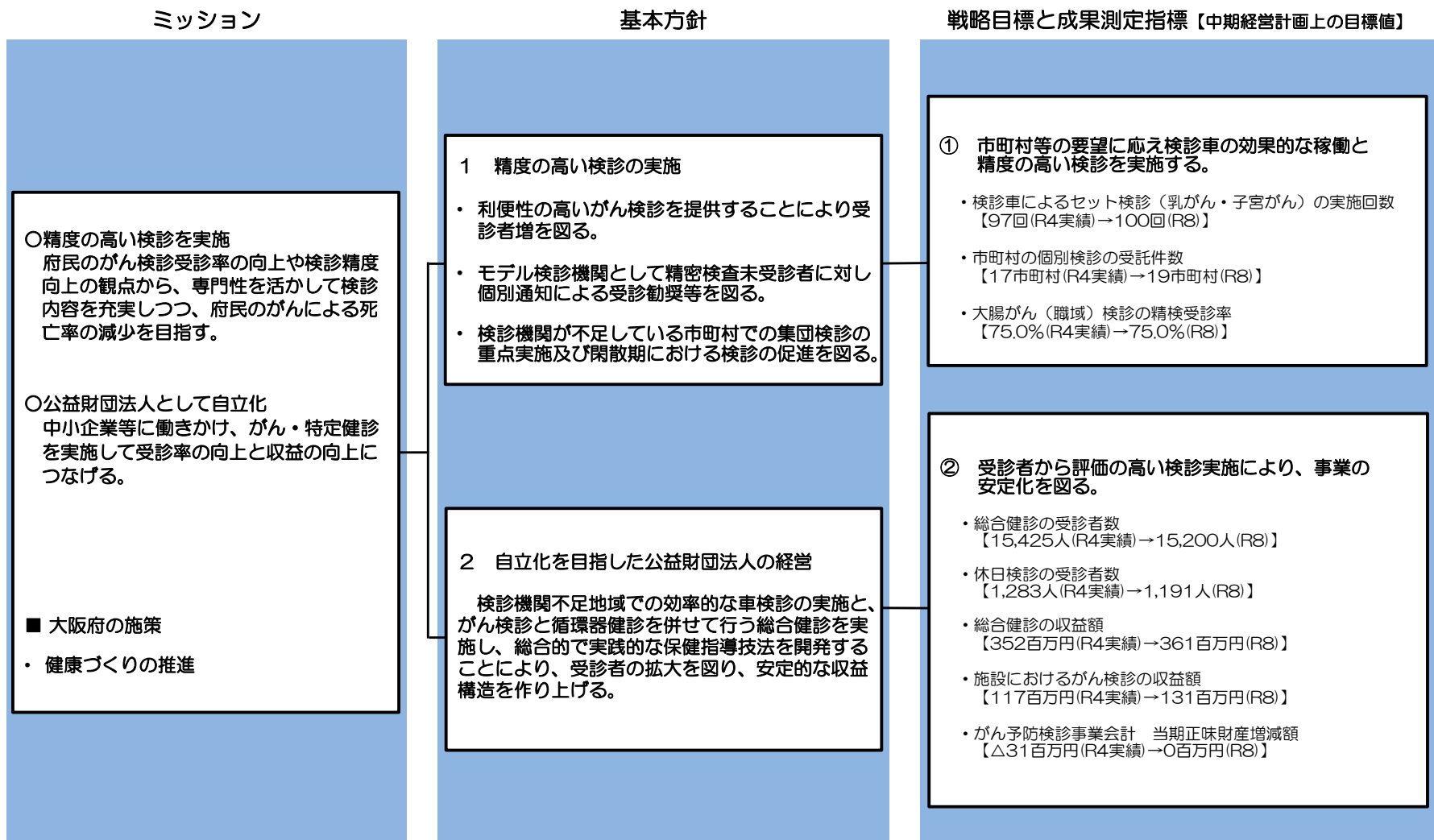


法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
作成 (所管課)	健康医療部健康推進室健康づくり課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和7年度の経営目標達成状況及び令和8年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 [見込値]	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
											R8 目標値	最終年度 目標値	
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の受診者数		人	17,290	17,800	[18,200]	35	35	18,600	35	15,200	15,200	・R7年度は目標値を上回る見込みである。R8年度については、大阪市職員検診等の大規模団体検診を引き続き受託できたことなども勘案し、R7年度以上を確保できるよう目標を設定する。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)												戦略目標達成のための活動事項	
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>○当財団は、第3期中期経営計画(令和4年度~8年度)において、最重要とした「総合健診」は公益目的事業であるがん予防検診事業の事業収益のうち約40%を占めており、第3期中期経営目標の達成に与える影響が大きい。</p> <p>○また、当財団の設立目的は、府民の死亡原因の上位を占めるがんと循環器の予防を目指した事業を推進することであるが、「総合健診」は、まさにこの目的に沿った事業であり、その推進は府民の健康の保持・増進に寄与するものである。</p>												
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○受診者数の多い大規模団体の入札を適正価格で落札できるかが課題であるため、確実に落札できるよう対策を練る。また、他団体についても、公益目的事業として健診の質(精度)を確保しつつ、適正な価格で受託できるようにし、一つの大規模団体に頼らない収益構造に転換していく。</p> <p>○収益確保のため、受診枠の拡大、受診受付人数の工夫及び土曜検診の充実などを図り、収益の確保へ向けて最大の努力を続ける。</p> <p>○当財団では多くの団体の検診を受託し、団体の希望に応じた健診メニューを提供しているが、健診システムの更新による業務の効率化を図る必要がある。</p> <p>○医師、検査技師、看護師などの医療スタッフの確保を図り、これらが要因で受診者の受け入れができないようなことはないようにする。</p>												
活動方針	<p>○第3期中期経営計画において、 【事業方針】 大阪府のがん死亡率が高く全国で最低レベルにある中、大阪がん循環器病予防センター(以下「当センター」という。)は府民のがん検診受診率や精度管理の向上に寄与しがんの早期発見、早期治療につなげるため、これまでに培ってきた専門性を活かし、受診者ニーズに対応したサービスの充実を図るとともに、収支構造の改善に取り組む。</p>												
												<p>・大規模団体検診、特に大阪市職員検診をR7年度~R9年度は受託できているので、他の団体についても受託を維持しつつ、収益が確保できる適正な価格に見直しを行うため、施設検診の料金改定を検討し、R9年度実施に向け各団体と折衝を行う。</p> <p>・企業や自治体に対し、トップセールスなど営業活動を強化し、当センターの優位性や質の高さをアピールすることにより、契約団体の理解を得て受診者数の増や新たな団体の獲得を図る。</p> <p>・R9年度当初に向けての健診システムや放射線画像システムの更新、電子カルテ導入などにより、国が進める全国医療情報プラットフォームや自治体検診DXの推進に将来対応できるようにするとともに、健診(検診)制度改正にも対応し健診の質を高め、合わせて健診業務や事務の効率化を進める。</p> <p>・週3日(火・水・木)の午後を設定した受診枠にがん検診(胃・大腸・肺がん・乳・子宮がん)を誘導することで、午前の総合健診の枠を確保し、効果的な総合健診の実施を図る。</p> <p>・機器更新による検診精度の向上や検診サービスの充実、受診後の手厚い結果説明や病院紹介、受診勧奨やWEB予約、クレジットカード支払いの実施などを通して受診者の利便性や満足度を向上させる。</p>	

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 〔見込値〕	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の 場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
											R8 目標値	最終年度 目標値		
① 市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する。	検診車によるセット検診(乳がん・子宮がん)の実施回数		回	105	108	×98	10	0	↓88	10	100	100	各自治体が検診日数を絞ってきていること、R8年度から2市の女性検診の受託ができなくなったことから、実施回数を大幅に増加させることは困難であるため、中期経営計画の目標値から辞退のあった自治体の実績割合を減じた88回とする。	・市町村が検診計画を作成するときに、セット検診が住民サービスにつながることを積極的にPRする。 ・午前中から子宮がん・乳がんのセット検診を実施するよう市町村に働きかける。
	市町村の個別検診の受託件数		市町村	19	20	20	10	10	21	10	19	19	現在契約している検診機関があり委託先を変更追加してもらうことは非常に困難であるが、中期経営計画の目標値を上回る21回体の確保をめざす。	・市町村に対し、機会をとりえPRIに訪問するなど個別検診受託の積極的な働きかけを行う。
	大腸がん(職域)検診の精検受診率(精検受診者数/要精検者数)		%	75.0	75.0	75.1	10	10	↓75.0	10	75.0	75.0	精密検診による早期発見は重要であり、受診率は、国が定める許容値の70%を上回る目標値である75.0%を目標としており、高水準での維持を目標とする。	・当センター以外での受診状況を把握し、未受診者への受診勧奨を継続して行い、受診率を向上させる。
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	休日検診の受診者数		人	1,177	1,200	×〔950〕	10	0	1,000	10	1,191	1,191	R7年度見込値に毎回2名(年間実施回数24回)程度の上乗せを目指し、1,000人の目標値を設定する。	・府内自治体に対して、女性のための土曜検診(子宮がん・乳がん検診、その他オプション検査)についてのお知らせ文書を出し、住民周知を依頼する。 ・当センターHP上でのPRや電話による個別の申込受付の際には、女性検診については土曜日への案内や誘導を積極的にするよう取り組む。

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の収益額		百万円	430	441	〔450〕	10	10	469	10	357	361	○R7年度は目標値を上回る見込みであり、R8年度も継続して大規模団体検診(大阪市職員検診)を受託できているので、R7年度見込値よりさらに上積みの目標値を設定する。	・機会を見つけ企業や自治体にセールスを行い、当センターの優位性や質の高さをアピールし、人間ドック健診等収益幅の大きい総合健診(特定保健指導受診勧奨等)の受診者を増やす。 ・HP上でオンライン市民公開セミナーの提供など効果的な広報で受診者を増やし、収益増につなげる。
	施設におけるがん検診の収益額		百万円	121	128	×〔114〕	5	0	117	5	131	131	○休日検診や、追加のがん単独検診やオプション検診の件数を伸ばす努力をすることで、R7年度見込値を上回る数値をめざす。	・休日検診や、がん単独検診やオプション検診の件数を伸ばす努力をする。 ・大阪市の住民検診をターゲットに地道な宣伝や受診勧奨を行い、胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の確保を図り収益の安定につなげる。
	がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額		百万円	5	1	〔1〕	10	10	2	10	0	0	○丁寧で精度の高い健診により受診者の満足度を高め、総合健診・施設がん検診・車検診の収益増を図り、中期経営計画のR8年度目標値クリアをめざす。	・車検診について料金改定を実施し、自治体の需要に応じた車検診の体制にしつつ稼働回数を確保し、収益の増を図る。 ・その他収益確保のための取組みとして、総合健診受診者数の増・休日検診の実施、オプション検査の拡大、午後検診者数の拡大を行う。
							R7得点合計 〔見込得点合計〕		〔75〕					

- 【凡例】
- ・☆はR8年度からの新規項目
 - ・×は目標値未達成
 - ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 - ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 - ・〔 〕内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

CS調査の実施概要

○令和7年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける健(検)診の満足度	受付で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん	・施設検診受診者	300人	令和7年10月1日～10月6日

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>結果の概要 受診者の年齢構成は前回調査(令和5年度)では50歳代が最も多く、次いで60歳代が続いていたが、今回の調査でも50歳代が最も多く、次いで40歳代・60歳代がほぼ同じ割合で全体の7割を占めていた。 また、性別では男性の受診者比率の増加により、女性の比率との差が縮まっている。 「検診スタッフの言動・態度」以降、受診者の方の評価は満足・ほぼ満足が9割を超え、非常に好意的な評価をえている。 今後も高水準な満足度を維持するため、受診者の意見などに的確に対応し、より一層の改革・改善を実施していく。</p> <p>○年齢 50歳代、40歳代、60歳代の順に多く、全体の72.6%</p> <p>○性別 女性が52.4% 令和5年度より男性の比率が増加した</p> <p>○受診した理由〔複数回答〕 「会社指定」が最多で、全体の33.9%</p> <p>○健診(検診)スタッフの言動・態度 「満足」と「ほぼ満足」を合わせて97.2%を占め、前回よりも高い評価となっている。</p> <p>○次回も当センターを受診したいと思うか 92.9%の受診者が「次回も当センターを受診したい」と前回よりも増えている。</p>	<p>(結果を踏まえ実施した取組) ・アンケート結果を職員に周知し、各所属において更なる改善点を協議し、改善できるものについては、直ちに対応する。</p> <p>(今後実施予定の取組) 個別に記述された意見等を分析し、改善点に結び付けていくとともに、引き続き満足度を高めるよう努力する。</p>

○令和8年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける車検診の満足度	検診会場で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん	・車検診受診者	300人	令和8年10月(予定)

■ 目標値未達成の要因について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
検診車によるセット検診の実施回数	回	108	98	△ 10

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応
①	自治体からの乳がん検診と子宮がん検診の実施希望が減少したこと			受託している自治体数は変わらなかったが、自治体を受診者を集約し検診日を絞っていることから、自治体からの申入れ件数が減った。 R6実績 子宮実施回数 160回 乳実施回数 249回 うちセット実施 105回 R7当初 子宮と乳の健診実施回数をR6年度と同程度と想定 うちセット実施 108回 R7見込 子宮実施回数 150回 乳実施回数 237回 うちセット実施 98回						・自治体が検診計画を作成するときに、セット検診が住民サービスにつながることを積極的にPRする。 ・午前中から子宮がん・乳がんのセット検診を実施するよう働きかける。
	関連項目名	子宮・乳実施回数	単位	回	R7当初想定値	409	R7実績値	387	差	

■ 目標値未達成の要因について

[2]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
休日検診の受診者数	人	1,200	[950]	△250

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応
①	休日検診の受診者数として計上している女性の施設がん検診受診者数が当初想定ほど伸びなかったこと。			施設で休日に実施している女性のがん検診である子宮がんと乳がんの検診数が当初想定と異なり伸びなかった。 休日検診の多くは自治体の市民検診の方であり、その受診が減っている。減少理由については様々な要因が推測され、女性の就労が進んだことで、平日に会社指定の医療機関での受診が増えたことなどが考えられる。						・府内自治体に対して、女性のための土曜検診(子宮がん・乳がん検診、その他オプション検査)についてのお知らせ文書を発出、住民周知を依頼する。 ・当センターHP上でのPRや電話による個別の申込受付の際には、女性検診については土曜日への案内や誘導を積極的にするよう取り組む。
	関連項目名	—	単位	—	R7当初想定値	—	R7実績値	—	差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府保健医療財団

[3]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
施設におけるがん検診の収益額	百万円	128	[114]	△14

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)					
①	施設がん検診の実施件数が減少したこと			平均単価は当初の想定どおりだったものの施設がん検診の実施件数が想定ほど伸びなかったため、収益が目標に達しなかった。 当初目標件数 44,150件 施設平均単価2,906円 見込件数 39,370件 施設平均単価2,913円					
	関連項目名	施設がん検診数	単位	件	R7当初想定値	44,150	R7実績値	39,370	差

要因分析を踏まえた今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市の住民検診をターゲットに受診勧奨やチラシ配架などの宣伝を行い、胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の確保を図る。 ・受付や問診時の複数受診の働きかけや誘導を積極的に行う。 ・がん予防キャンペーン講演会等、がん予防啓発事業の取組みを通じ、がん検診の重要性を浸透させていくことで、検診受診者数の増加を図る。



■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
検診車によるセット検診(乳がん・子宮がん)の実施回数	回	98	88

<p>マイナス(現状維持)目標の考え方</p>	<p>R8年度委託辞退の申し出があった自治体のR7実績をふまえ、中期経営計画の目標値からその割合を減じた88回を目標とする。</p>
--------------------------------	--

[2]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
大腸がん(職域)検診の精検受診率(精検受診者数/要精検者数)	%	75.1	75.0

<p>マイナス(現状維持)目標の考え方</p>	<p>精密検診による早期発見は重要であり、受診率は、国が定める許容値の70%を上回る75.0%を目標としており、高水準での維持を目標とする。</p>
--------------------------------	--